

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	34	窪川	高等学校	課程	全
------	----	----	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する。 山・川・海が揃った豊かな自然資源を生かした探究型学習やデジタル教育により、課題解決力や起業精神を育むことで、地域社会に貢献する人材を育成する。
スクールのポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ①基本的な生活習慣や学習習慣を身に付けている人物 ②自らの目標と課題を探究する意欲がある人物 ③自分の事を客観的にとらえられる人物 セルフマネジメントができる入学者 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ①起業精神を身に付け、社会貢献するための技能「勤労の愛好」 ・イベントや事業を企画し、マネジメントできる技能を育む ②DX化する社会に自らの能力を活かす態度「真理の探究」 ・デジタル技術やデジタルサイエンス等を社会や生活に活かす態度を育む ③協働できる勇気「品性の涵養」 ・他者と技能等を補い、新たなミッションに挑戦する勇気を育む ・課題を分離し、分業と貢献の姿勢で臨む態度を育てる	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針)	①様々な進路に対応する教育課程の研究と学習環境の充実 ②学習習慣、少人数指導、個別最適学習など基礎学力向上への対応と教育相談の充実 ③「地域を頼り、貢献する」地域課題研究や地域部活動の実施 ④ポジティブ化、フォローシップの実行

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価 【 B 】	基礎力診断テストにおけるスコアの伸びや、四方十町からの支援を有効に活用した学校側の地道な努力が着実な成果として現れており、高く評価できる。一方で、指標によっては目標未達成の項目もあり、特に学習習慣の定着や学びに向かう意欲(評価指標④)については、生徒自身の意識をさらに高めるための取り組みが必要である。また、入学時から卒業時までどの程度学力が向上したかを具体的に可視化する工夫や、思考力・判断力を養うための土台として、読書や新聞活用といった文字メディアに触れる機会を積極的に推奨することを求める提言がなされた。
【社会性の育成】 評価 【 B 】	「新文化祭」や「夢志発表会」等の行事を通じ、生徒が達成感を得て自己の良さや課題を振り返る機会となっている点は極めて好ましい。今後は小・中学校での探究学習との差別化を意識し、高校生ならではの視点で地域課題の解決を提案する場としてのさらなる発展を期待する。また、社会進出を目前に控えた時期であることを踏まえ、地域社会への関わり方を主体的に考える姿勢や、コミュニケーションの入口である「挨拶」などの基礎的習慣の定着を、学校と家庭が密に連携して進めていくことが今後の重要な課題である。
【チーム学校】 評価 【 A 】	再編振興計画の目標達成に一定の目途を立てた現場の尽力を高く評価するとともに、教職員が生徒と一緒に学び、楽しむ姿勢が校内に活力を与えている点を支持する。学校の魅力化・特色化については、教職員のみならずOBや地域住民を巻き込んだ「応援団」が一丸となって取り組む体制が構築されており、組織的な発信力の高まりが認められる。今後は、少子化という厳しい状況下にあっても、生徒一人ひとりが希望する進路を実現できるよう、学校組織として個別最適な教育を追求し続け、地域全体で学校を盛り上げる仕組みをさらに強固にしていってほしい。

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

重点項目	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】		年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
					中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】		
学力の向上	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	①基礎力診断テスト「C層以上」最終65%以上 1年① 1年② 2年① 2年② 2年 30 → 45 → 55 → 60 (%) 1年 35 → 45 → 55 → 70 (%) 高知県オリジナルアンケート ②「授業以外の学習時間」 1日1時間以上 65%以上 (R6第2回 34%) ③「将来の可能性を広げるために勉強」 あてはまる 65%以上 (R6第2回 44%) ④「時間がかかることも最後まで考え行動」 あてはまる 65%以上 (R6第2回 30%)	○授業改善への取組 ○習熟度別講座・T T指導・遠隔教育 ○学習支援員によるT T支援や補習 ○課題・テスト・事前学習 (含ワンウイークトライアル) ○定期試験2週間前キックオフ期間 ○DX/ICT活用 ○公設塾との連携 ○企業・学校訪問 ○進学説明会・合同企業説明会 ○ビジネススマナー研修 ○スキルアップ講座 等	①基礎力診断テスト「C層以上」 2年13名(48%) 1年6名(35%) 高知県オリジナルアンケート ②「1日の学習時間1時間以上」 22% ③高知県オリジナルアンケート 「将来の可能性を広げるために勉強」 あてはまる 44% ④「時間がかかることも最後まで考え行動」 あてはまる 38%	・当初計画に沿った取組の継続ならびに予習・復習サイクルの徹底 ・授業と授業外学習をつなぐシームレス化を取り入れた授業改善 ・基礎的事項の丁寧な指導 ・個別指導・支援の継続 ・1時間以上の家庭学習習慣の定着に向けた取組	①基礎力診断テスト「C層以上」 2年13名(48%) 1年12名(75%) 高知県オリジナルアンケート ②「1日の学習時間1時間以上」 33% ③高知県オリジナルアンケート 「将来の可能性を広げるために勉強」 あてはまる 41% ④「時間がかかることも最後まで考え行動」 あてはまる 36%	・公開授業でPDCAを着実に実施するなど、授業デザインプロジェクトを進展させることで、授業改善を進める。 ・個別指導・支援を継続する。 ・AIドリルを導入し1時間以上の家庭学習習慣の定着を図る。	
社会性の育成	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	高知県オリジナルアンケート ①「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き理解しようと努力」 あてはまる 65%以上 (R6第2回 51%) ②「地域や社会のために地域貢献活動やボランティア活動を行った」 あてはまる 65%以上 (R6第2回 31%)	○ホームマッチ ○ホームデー ○WelcomeSportsFestival ○合同防災訓練・救命講習 ○交通安全運動 ○挨拶運動 ○ボランティア清掃 等	高知県オリジナルアンケート ①「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き理解しようと努力」 あてはまる 45% ②「地域や社会のために地域貢献活動やボランティア活動を行った」 あてはまる 30%	・学校行事等への主体的な取組を尊重し、自己有用感や達成感の向上につなげる取組の継続 ・総合的な探究の時間や地域課題研究等で地域と協働した学びの実践	高知県オリジナルアンケート ①「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き理解しようと努力」 あてはまる 39% ②「地域や社会のために地域貢献活動やボランティア活動を行った」 あてはまる 38%	・学校行事等への主体的な取組を尊重し、自己有用感や達成感の向上につなげる取組を継続する。 ・総合的な探究の時間や地域課題研究等で地域と協働した学びを継続発展させる。	
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	高知県オリジナルアンケート ①「地域・社会のためにすべきことを考える」 あてはまる 前年比10p上昇 (R6第2回 20%) ②「学習によって環境や社会の問題に対する意識や行動が変化」 あてはまる 前年比10p上昇 (R6第2回 24%)	○新文化祭 ○地域課題研究・探究学習 ○探究学習発表会 ○フードドライブ等地域貢献活動 ○特産品販売実習(大阪) ○地域行事等での協働活動 等	高知県オリジナルアンケート ①「地域や社会のためにすべきことを考える」 あてはまる 19% ②「学習によって環境や社会の問題に対する意識や行動が変化」 あてはまる 23%	・総合的な探究の時間や地域課題研究等で地域社会への関心向上や主体的な行動をめざした地域との連携・協働の継続	高知県オリジナルアンケート ①「地域や社会のためにすべきことを考える」 あてはまる 20% ②「学習によって環境や社会の問題に対する意識や行動が変化」 あてはまる 27%	・総合的な探究の時間や地域課題研究等で地域社会への関心向上や主体的な行動をめざした地域との連携・協働を継続発展させる。
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	高知県オリジナルアンケート ①「学んだ知識をもとに考え、まとめ、発表する授業」 あてはまる 65%以上 (R6第2回 53%) ②「学習すること自体がおもしろいから勉強している」 肯定 60%以上 (R6第2回 46%)	○公開授業・研究協議・先進校視察 ○年次研修・授業研修セミナー ○学習アプリ・デジタル教材の活用 ○学習の記録に関する指導 ○読書啓発に関する取組 ○「情報Ⅱ」の内容の各教科への応用 等	高知県オリジナルアンケート ①「学んだ知識をもとに考え、まとめ、発表する授業」 あてはまる 52% ②「学習すること自体がおもしろいから勉強している」 肯定 45%	・組織的な授業改善に向けた参観授業や研究協議等の取組を継続 ・ICTの効果的な活用の研究	高知県オリジナルアンケート ①「学んだ知識をもとに考え、まとめ、発表する授業」 あてはまる 59% ②「学習すること自体がおもしろいから勉強している」 肯定 44%	・授業デザインプロジェクトの取組を深化させ、興味関心を持たせる組織的な授業改善に向けた公開授業や研究協議等を実施する。 ・生成AIやICTを効果的に活用した授業改善を図る。

チーム学校	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】		年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
					中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】		
学校の振興	★学校の魅力化・特色化 ○起業精神の育成 ・地域と連携した課題研究の充実 ・DXを活用した6次産業化カリキュラムの実施 ・特色ある協定校との国際交流の実施	①R7(R8選抜)入学希望者40名以上 (R6 A・B日程志願者数計18名) ②R8地元中学校からの入学率35%以上 (R6 14%) ③R7部活動入部率75%(うち運動部40%)以上 (R6 72%、うち運動部34%) ④R7学校運営協議会や地域コンソーシアム等の合計実施回数 5回以上	○教育DX加速化 ○国際交流事業(韓国)の実施 ○コーディネータ・指導員の充実 ○地域コンソーシアムによる地域協働活動の充実、活動地域部活動・中高連携部活動・総合スポーツ同好会の推進 ○学校運営協議会やアクションプラン検討地域コンソーシアムの充実 ○取組の可視化・PR強化 等	①体験入学申込者(全体) 93名 窪川78、大正1、佐賀1、須崎1、久礼1、野市2、城東1、土佐町1、一宮1、南海1、横浜1、愛宕2、清水1、潮江1 ②体験入学申込者(地元中学校) 78名 ③部活動入部率82%(うち運動部49%) ④R7学校運営協議会や地域コンソーシアム等の合計実施回数 3回	・地域と協働した活動や地域交流等コンソーシアムの取組を継続 ・地域の中学生の進路動向を見据えた教育課程の開発 ・ホームページ等での情報発信を継続 ・野球部再開など部活動活性化のための取組、準備	①体験入学申込者(全体) 93名 窪川78、大正1、佐賀1、須崎1、久礼1、野市2、城東1、土佐町1、一宮1、南海1、横浜1、愛宕2、清水1、潮江1 ②体験入学申込者(地元中学校) 78名 ③部活動入部率82%(うち運動部49%) ④R7学校運営協議会や地域コンソーシアム等の合計実施回数 5回	・地域みらい留学に参加し全国からの生徒募集に取組む ・地域と協働した活動や地域交流等コンソーシアムの取組を継続 ・ホームページやインスタグラム等様々なメディアを活用し魅力発信をする。 ・野球部再開など部活動活性化をさらに進めていく。	
不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	①法令遵守意識の浸透普及 100% ②校内研修の実施回数 年3回 ③不祥事防止委員会の実施回数 年3回	○相談しやすい環境づくり ○日常的な対話・啓発・声かけ ○個人情報等の取り扱いに際しての確認体制の周知徹底 等	①校内研修等の実施回数 6回 4月「信頼される学校づくりのために」5月「ハラスメント」6月「児童生徒性暴力等」7月「わいせつ行為・性犯罪等」8月「体罰」9月「飲酒運転」 ②不祥事防止委員会の実施回数 6回 上記研修の内容確認	・予防と理解の徹底に向けた取組を継続 ・毎月実施の職員会にて校内研修の継続	①校内研修等の実施回数 14回 4月「信頼される学校づくりのために」5月「ハラスメント」6月「児童生徒性暴力等」7月「わいせつ行為・性犯罪等」8月「体罰」9月「飲酒運転」10月「スピード違反」「児童生徒性暴力」12月「個人情報」「教育長メッセージ」「服務規律」1月「公金」2月「公務員としての自覚」3月「不祥事防止研修の振り返り」 ②不祥事防止委員会の実施回数 14回 上記研修の内容確認	・毎月職員会にて校内研修を実施するとともに、協議形式など自分ごととなる研修方法を取り入れる。 ・ストレスを溜めない環境づくりをすすめる。	
働き方改革	★長時間勤務の解消 ○校内組織の改編・分掌業務の見直しによる、個々の生徒と向き合う時間や指導力向上への時間の確保	①時間外勤務 各月の平均 30時間未満 (R6 27時間) ②休暇取得率 夏期特休 100% (R6 97%)	○校務DXによる業務改善 ・ルーチン化、ペーパーレス化 ・Google、グループウェアの活用 ・クラウドへの保管・整理ルール徹底 ○事業概要書・役割分担表の活用 ○地域部活動・中高連携部活動の拡大 等	①時間外勤務 4月28、5月28、6月23、7月16、8月6、9月25 (時間) ②休暇取得率 夏期特休 96%	・業務の整理や精選等の取組を継続 ・校務DXによる業務改善	①時間外勤務 4月28、5月28、6月23、7月16、8月6、9月25、10月23、11月23、12月16、1月19、2月20 (時間) ②休暇取得率 夏期特休 96%	・業務の整理や精選等の取組を継続する。 ・生成AIを効果的に活用するなど校務DXによる業務改善を進める。 ・学校閉庁日を設定する。	